



2013年3月期  
決算説明会

2013年4月24日  
株式会社トーメンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トームンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

# 本日の内容

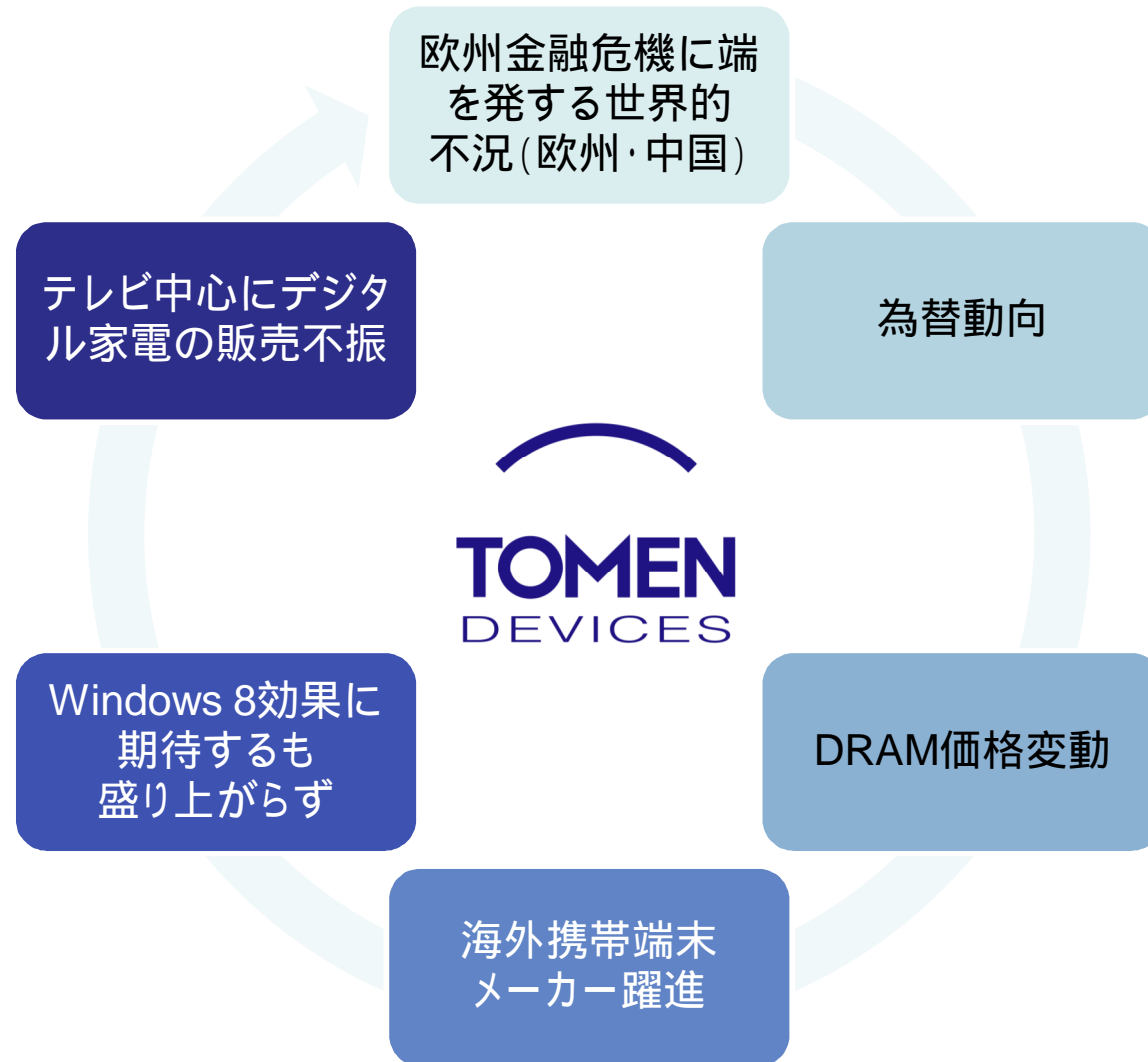


2012年度 決算概況

2013年度 見通し

2013年度 商品別の重点取り組み

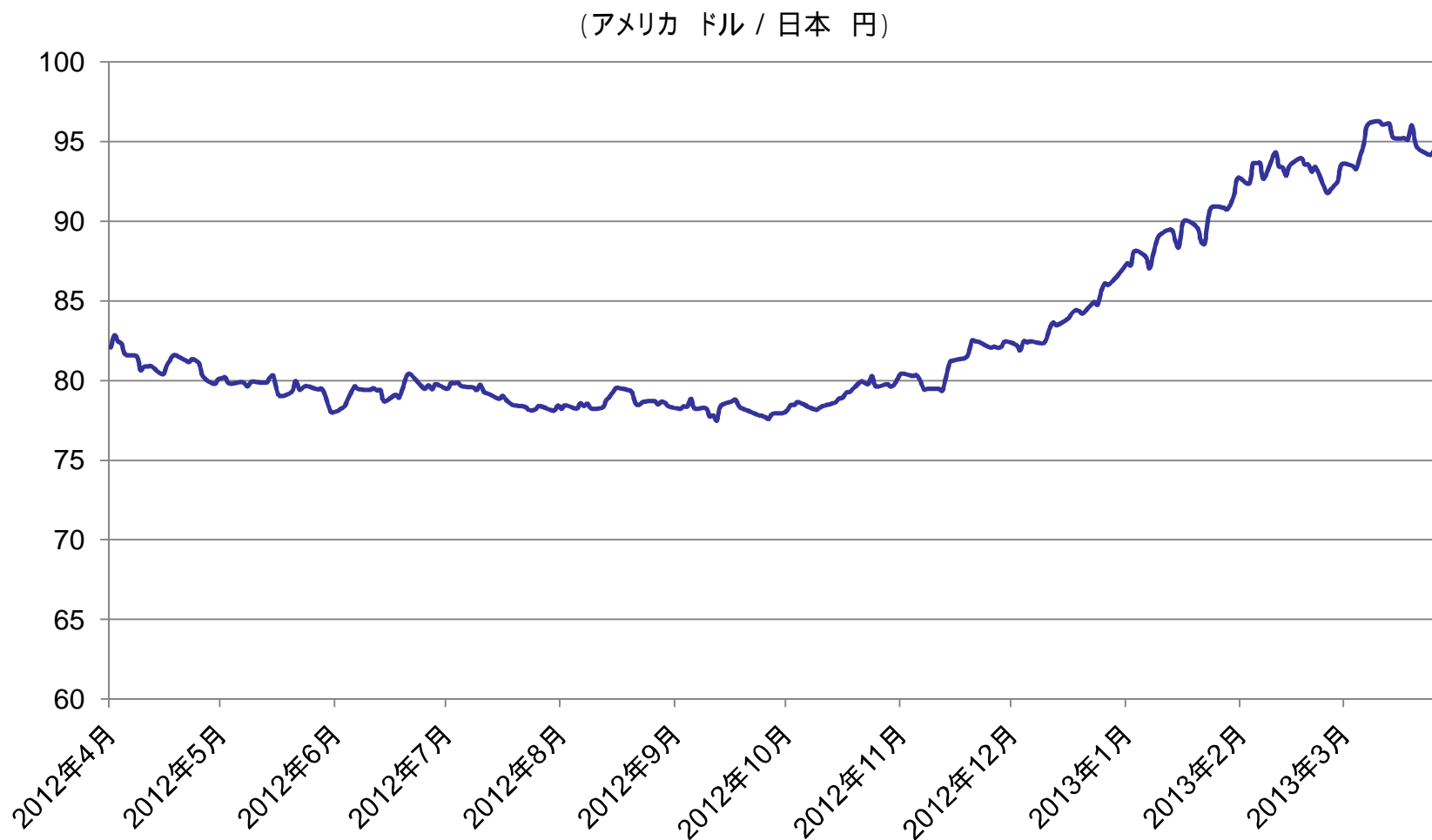
# 2012年度の環境



# 為替レート推移 ( '12年4月1日 ~ '13年3月31日 )



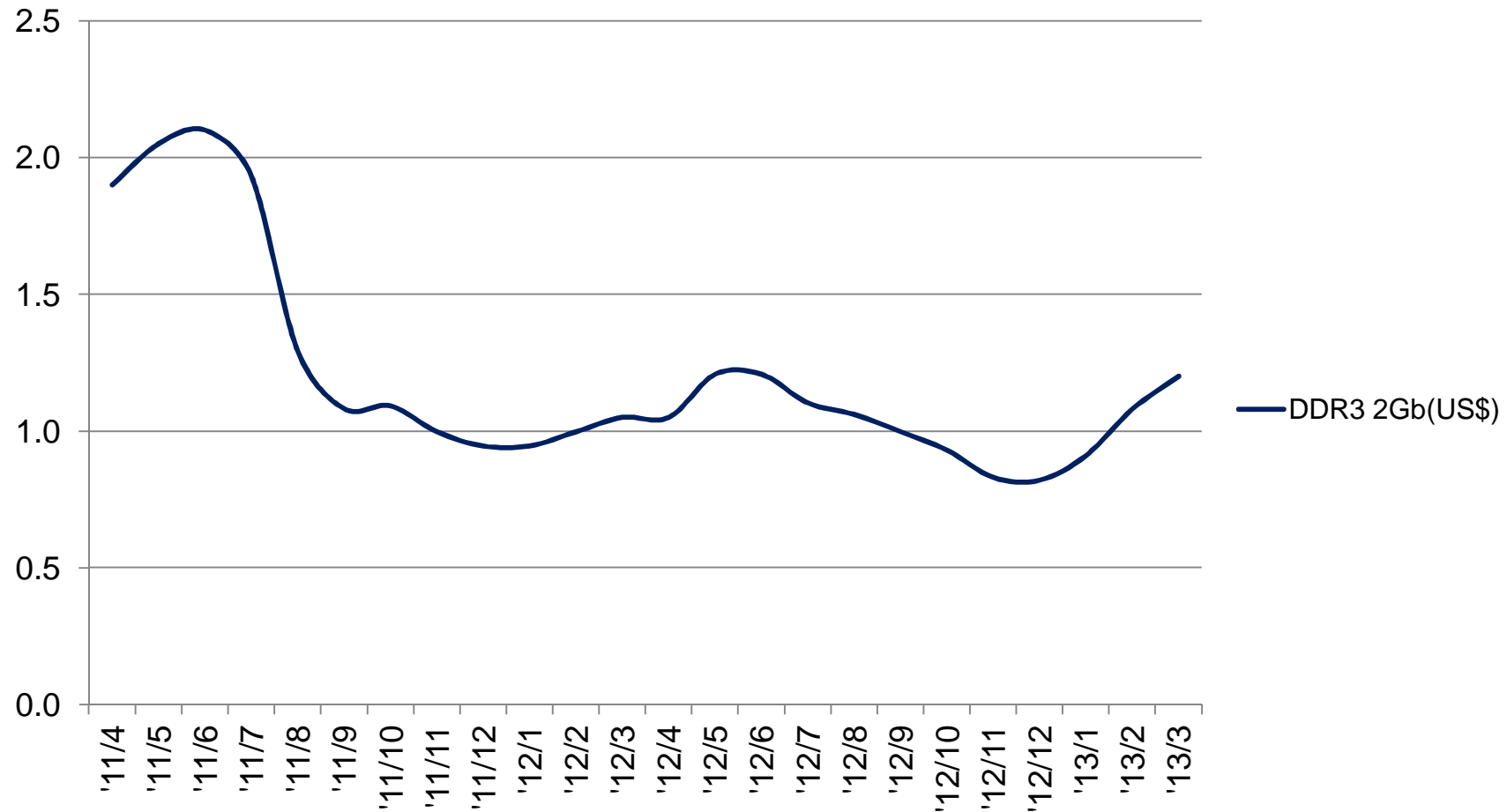
安倍政権発足まで円高傾向継続。その後円安傾向に。



# DRAM価格推移 ( '11年4月 ~ '13年3月)



2013年1月までは下落傾向継続。その後緩やかな上昇基調へ。



(出所) 各種資料をもとに当社で作成

# 2012年度 当社トピック



ATMD (Hong Kong) LTD.稼働。中国市場への本格的進出を果たす。  
同市場は激しい価格競争のため、利益面では苦戦。

SSDの取扱開始。

有機ELがスマートフォン向けで増収に。

タブレット及び液晶テレビ用にDDI(ディスプレイ・ドライバーIC)を拡販。

照明用LED分野に進出。

# 連結業績サマリー



(百万円)

	2011年度	業績予想	2012年度	増減額 (対2011)	増減比 (対2011)
売上高	151,426	138,000	<b>137,383</b>	14,043	9.3%
売上総利益	5,483	—	<b>4,209</b>	1,273	23.2%
営業利益	3,487	2,250	<b>1,928</b>	1,559	44.7%
経常利益	3,918	2,350	<b>1,959</b>	1,959	50.0%
当期純利益	2,374	1,460	<b>1,194</b>	1,179	49.7%
総資産	46,970	—	<b>43,362</b>	—	—
純資産	21,539	—	<b>22,709</b>	—	—
1株当たり純資産(円)	3,166.82	—	<b>3,292.53</b>	—	—
自己資本比率	45.9%	—	<b>51.6%</b>	—	—

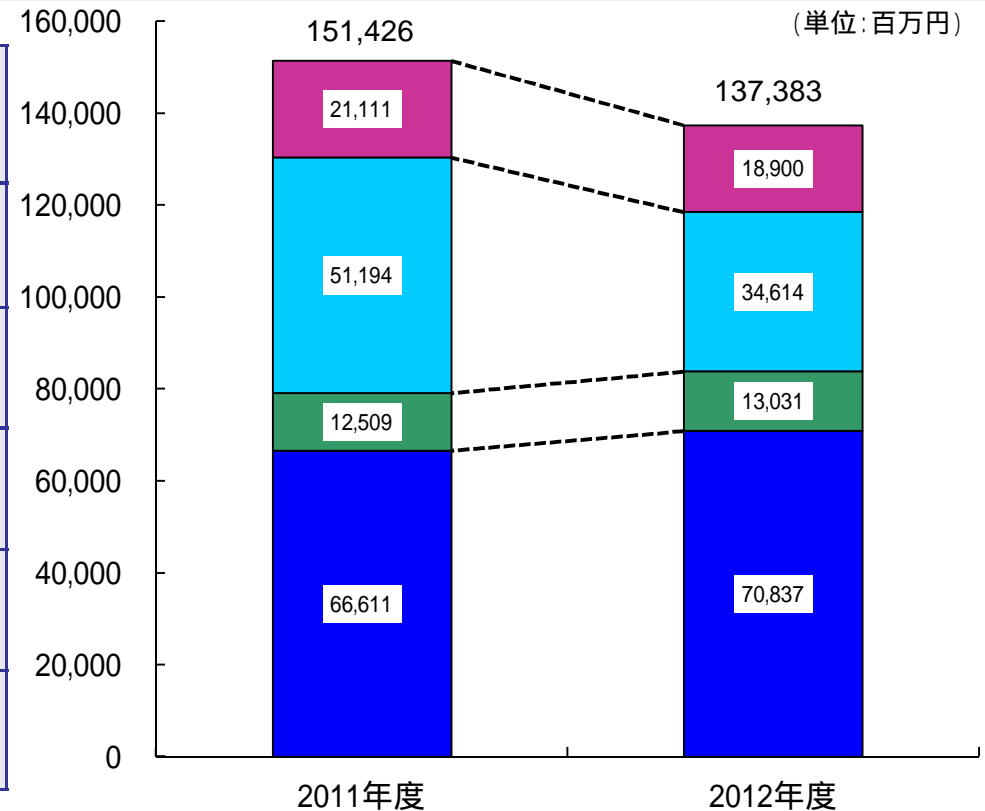
業績予想数値は2012年10月10日に開示した「業績予想の修正に関するお知らせ」の値です。

ATMDのビジネス拡大、プロダクトミックス及び為替変動等により利益確保に苦しむ。



# 商品別 売上高推移

(単位:百万円)	2011年度	2012年度	増減率 対前年比
メモリー	66,611	70,837	6.3%
システムLSI	12,509	13,031	4.2%
液晶	51,294	34,614	32.4%
その他	21,111	18,900	10.5%
合計	151,426	137,383	9.3%



## メモリー

スマートフォン普及によりモバイル用メモリーは好調  
PC、TV及びデジカメ等のDRAMは需要減

## 液晶

デジタルサイネージは比較的堅調  
PC、TV向けは価格競争激化の影響でマイナス

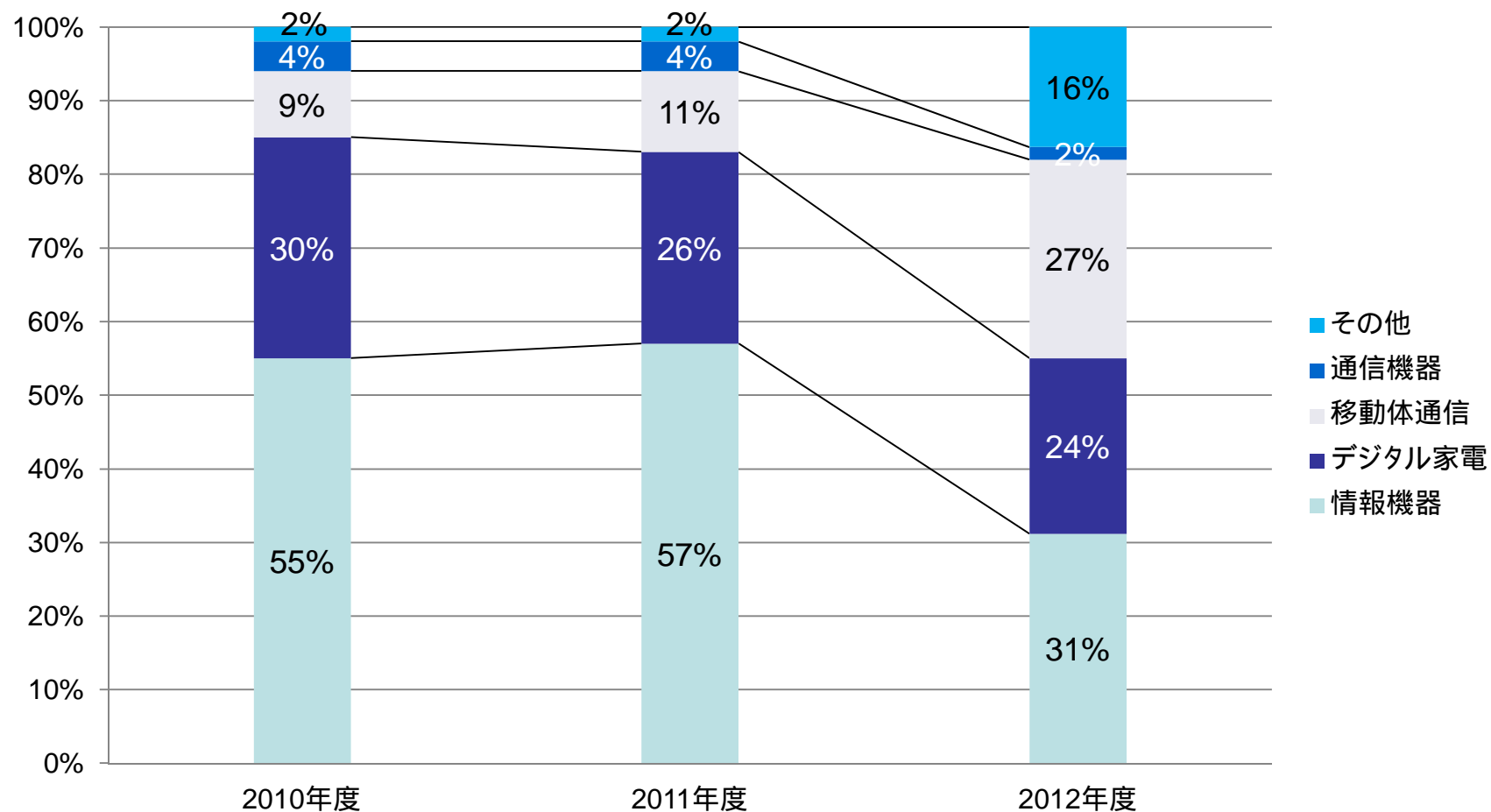
## システムLSI

タブレット、大型液晶向けDDIが好調  
デジカメ市場の成熟感もあり同用途向けASICは減少

## その他

スマートフォン向け有機ELの売上が伸長  
TV需要減の影響でバックライト用LEDが販売減

# 用途別売上高の構成推移



その他	工作機械、カーナビ、アミューズメント、電子辞書、SDカード等
通信機器	移動体通信除く基地局等
移動体通信	携帯電話、スマートフォン等
デジタル家電	BD、デジカメ、テレビ等
情報機器	PC、タブレット、サーバー等関連機器

2012年度 決算概況

**2013年度 見通し**

2013年度 商品別の重点取り組み

# 2013年度の環境予想



## *[Positive]*

- ミニタブレット市場が活性化。
- 消費税増税前の駆け込み需要。
- 景気回復への期待による購買意欲の上昇。
- ソチ五輪、ブラジルW杯に向けたTV、BD需要喚起の期待。
- WindowsXPサポート終了による、法人を中心としたPC需要増への期待。
- 上期は新興国でのスマートフォン需要により、NAND等の需要が回復。PC用DRAMもモバイルへのシフトにより、価格上昇の見込みも。下期以降は不透明。

## *[Negative]*

- テレビ、BDレコーダー、デジタルカメラ等の需要が低迷。
- 海外(米国、韓国、台湾、中国)メーカーの国内スマートフォン市場でのプレゼンスが更に高まる見込み。
- セットメーカーの事業売却・再編の加速の可能性。

# 2013年営業戦略

悪環境が予想される中、サムスングループが持つ、圧倒的な市場シェアを有する先端技術を応用した製品の取り扱いに特化した事業展開を今後も継続し、エレクトロニクス分野でのトータルソリューションを提供する商社を目指す。

•ATMDの持つ顧客の分析と顧客が保有する成長期待セットへのサポートの強化

•中国及び台湾拠点を活用した国内デザイン・イン分の海外EMS先での刈取りサポート強化

•スマートフォン向けトータルソリューション提案の実施  
(メモリ、CMOSイメージセンサ、有機EL、AP)



•車載市場への中長期的な取り組み  
(有機EL、LED)

•APの提案活動を強化

•ASIC/Foundryの受注活動を  
幅広く展開



•LED照明市場への本格参入

•SSDを、ITGマーケティングを活用して、拡販を強力に推進

•SSDのUltrabook™、タブレット、サーバーストレージシステムへの積極拡販

# 2013年度計画



	12年度実績	13年度計画	増減	前期比
売上高	137,383	138,000	616	0.4%
営業利益	1,928	1,240	688	35.7%
経常利益	1,959	1,300	659	33.6%
当期純利益	1,194	780	414	34.7%
1株当たり 当期純利益(円)	175.63	114.68	—	—
1株当たり 配当金(円)	50	30	20	—

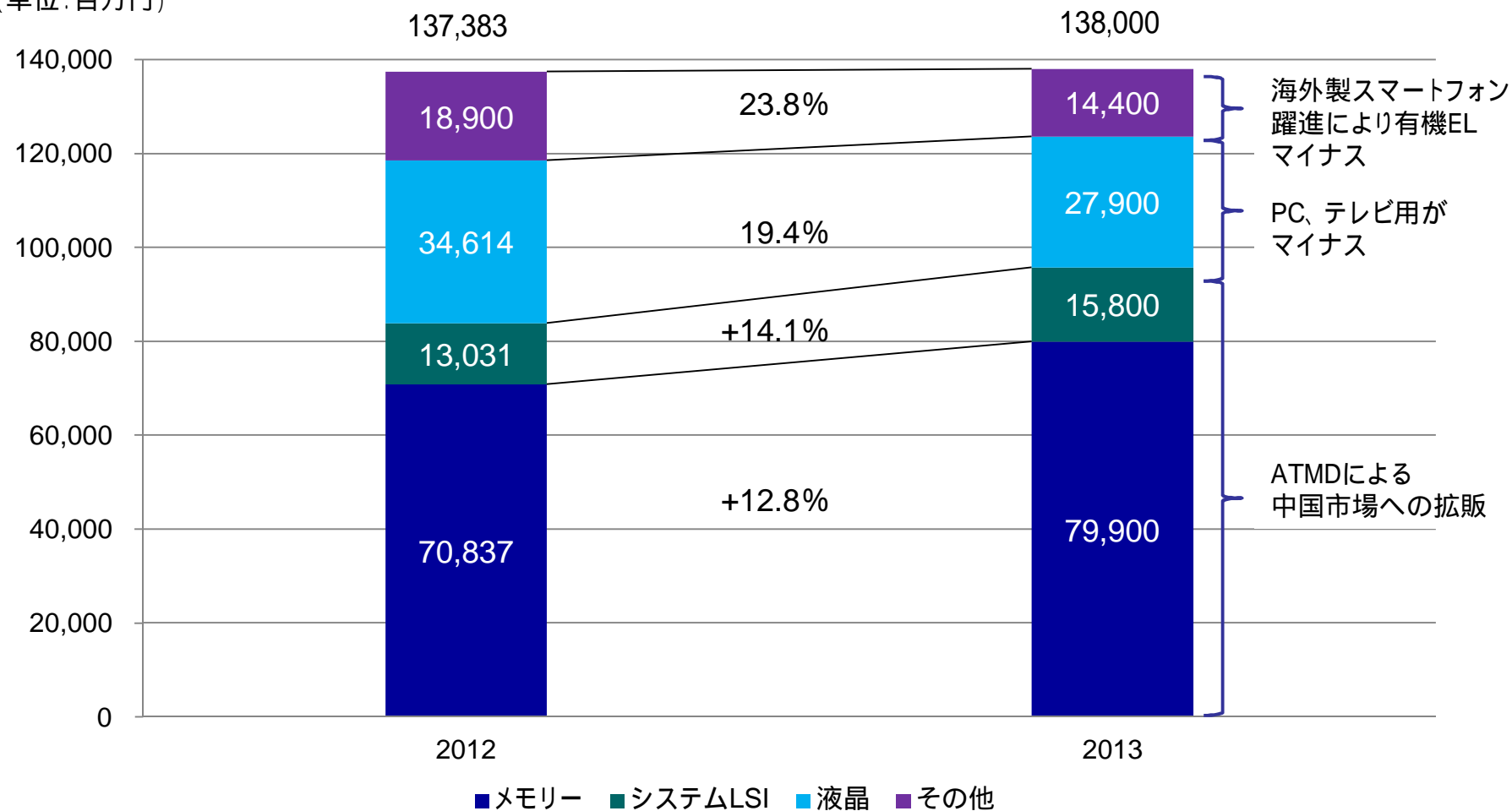
## 【2013年度 増収減益の理由】

1. ATMDのビジネス(中国市場でのビジネス)が拡大し、価格競争が更に厳しくなると予想。
2. 取扱商材の拡大によるプロダクトミックスの変化。

# 商品別売上計画



(単位:百万円)

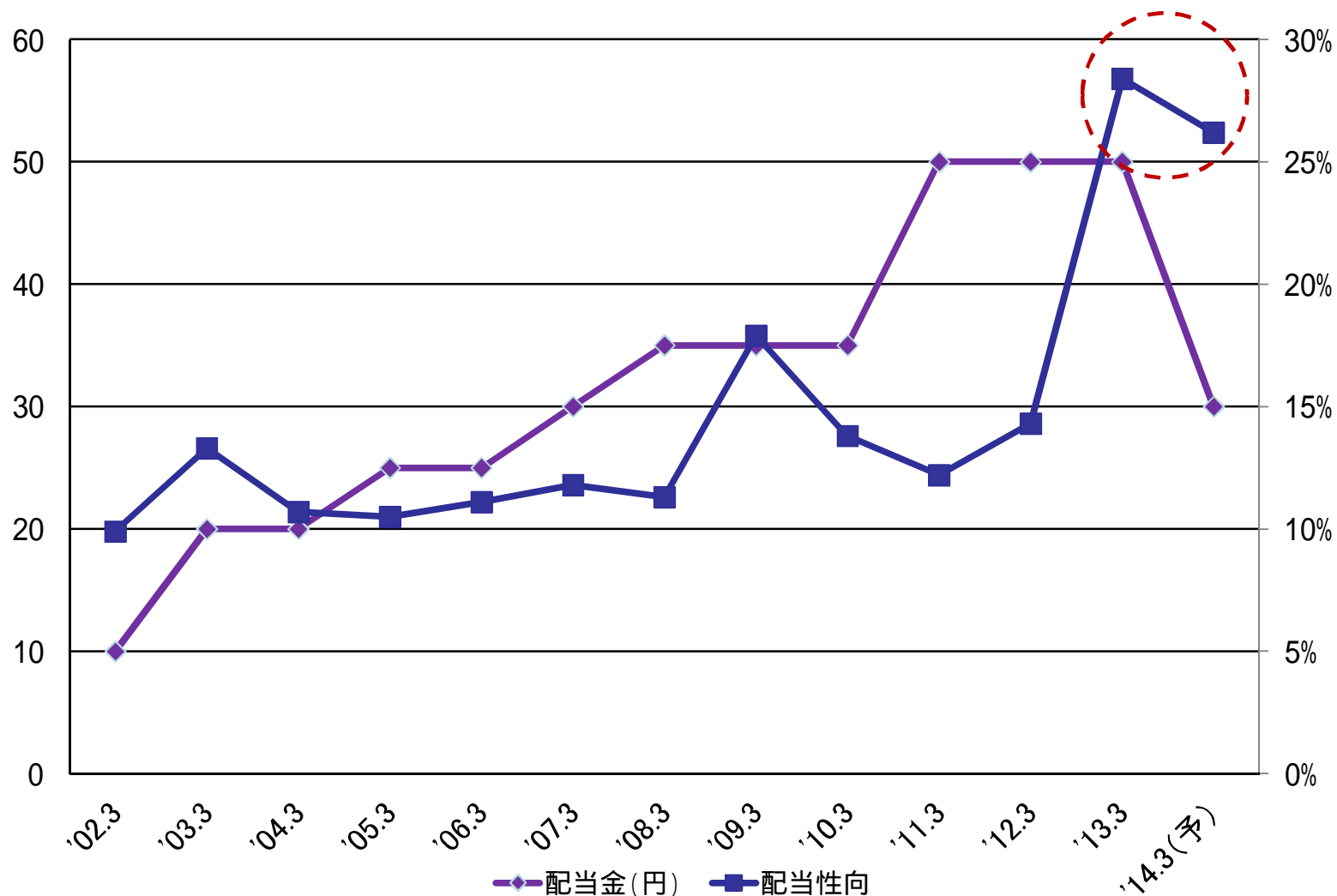


# 配当計画 (1株当たり)



連結配当性向は20～30%を目処。

(単位:円)





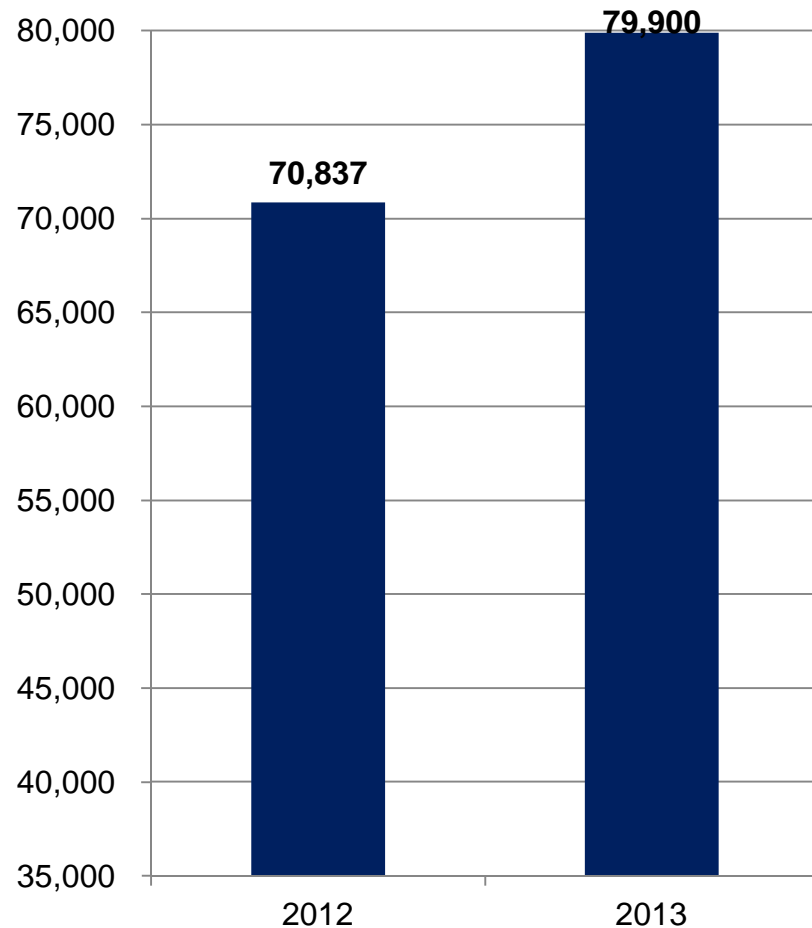
2012年度 決算概況

2013年度 見通し

**2013年度 商品別の重点取り組み**

# メモリー分野

(単位: 百万円)

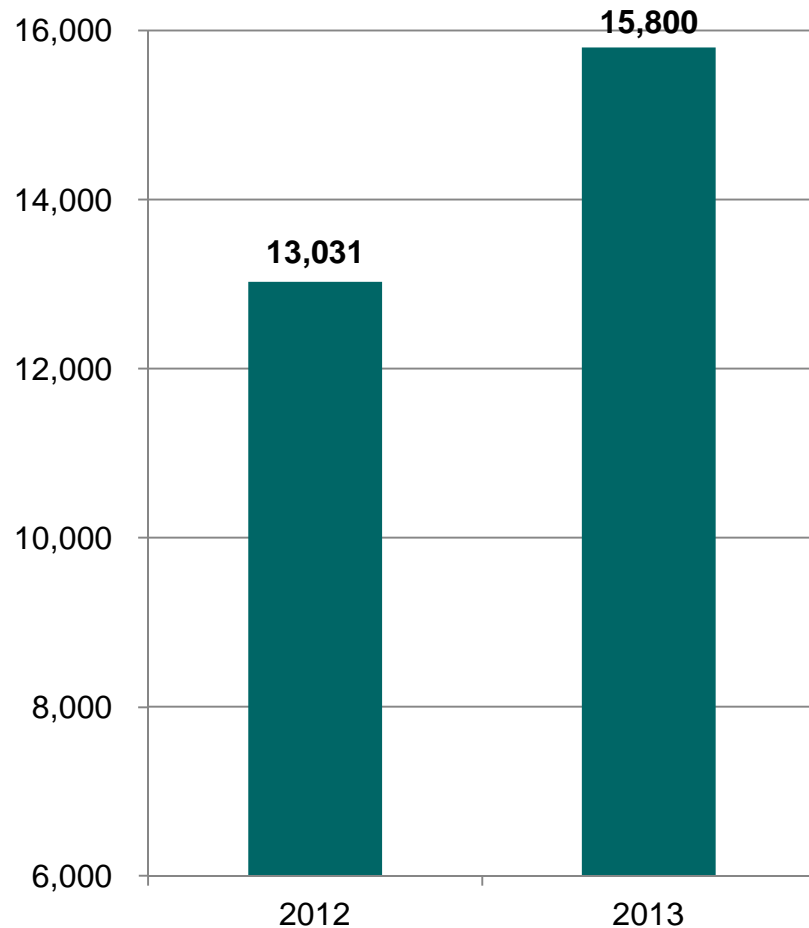


- 中国市場へ本格的攻勢 (NAND等)
- グリーンメモリー (DRAM) の拡販: サーバー、RAID
- SSD : PC向けにデザイン・インとシェアの拡大
- SSD : サーバー・ストレージ市場への参入
- SSD : データセンターへの拡販
- SSD : BPOへの拡販

# システムLSI分野

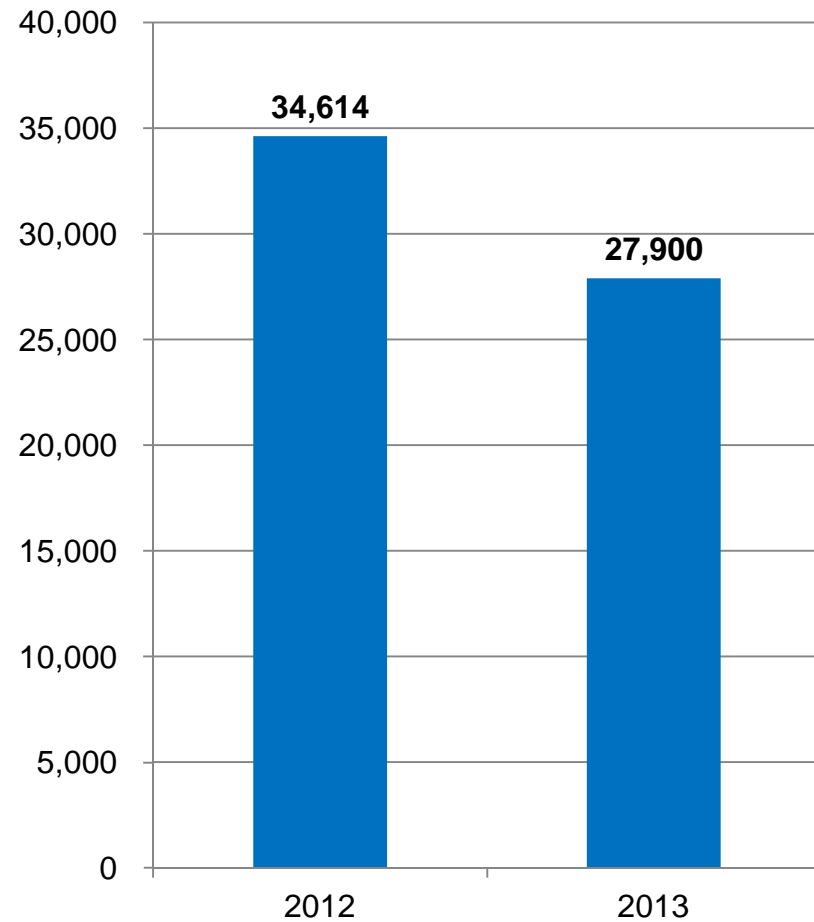


(単位:百万円)



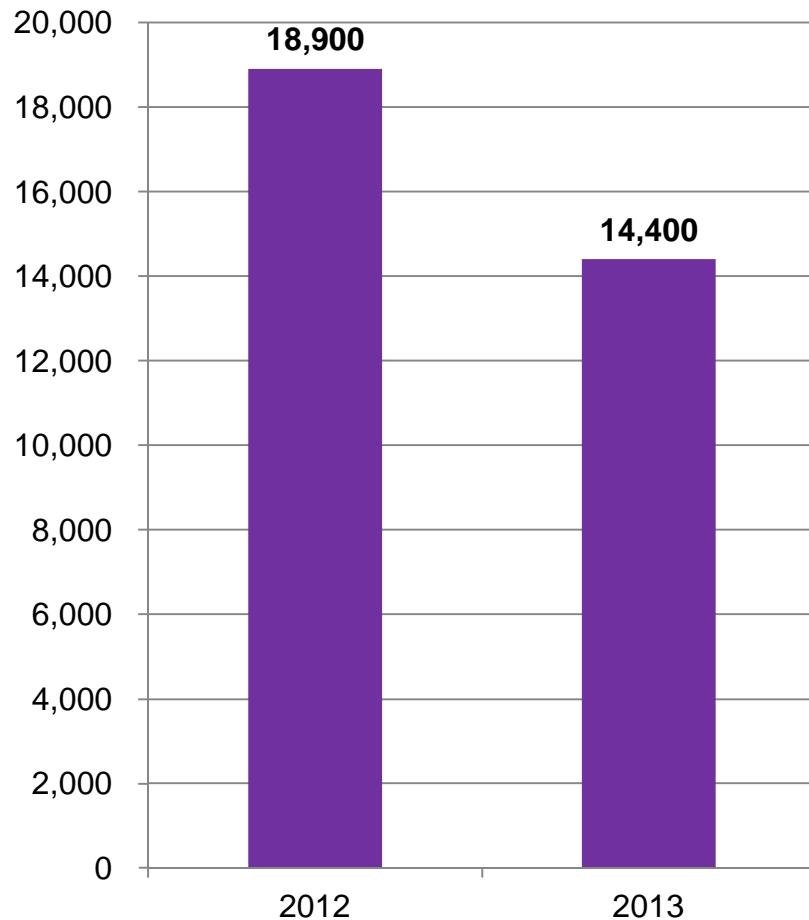
- DDI: タブレット、スマートフォン、LCDTV向け案件の徹底サポートと拡販
- CIS: 携帯・DSC向けに拡販
- AP : スマートフォンへのデザインインを推進
- AP : 中国市場での積極推進
- Foundry/ASIC: 新規参入を図る

(単位:百万円)



- テレビ需要が落ち込む中、マーケットシェアの維持・拡大に注力
- モニター、デジタルサイネージ、ノート：開発促進・品質改善に努める

(単位:百万円)



- 有機EL :次機種スマートフォンへの集中プロモーション
- 有機EL :カーナビ、DSCへ市場を拡大
- ODD:大手PCメーカー向けデザインイン
- LED :車載を今後の重要市場として攻勢強化
- LED :照明市場への拡販

